

語学教育研究所図書室の 廃止以降について

芝田 穂（資料管理課）

2004年3月末で語学教育研究所（語研）が廃止されました。それに伴い、図書室の機能（購入・保存・利用等）すべてが中央図書館に移行しました。又、視聴覚資料室（7号館5階）とLL自習室（同）は、国際教養学部施設として活動を継続し、資料は従来どおりのサービス条件で利用できます。語研図書室は、7号館時代（1959～1998年）と22号館時代（1998～2004年）の45年を経て、その幕を降ろしました。

この間図書室は、言語学や各国語に関する研究書・参考書・雑誌などを収集してきました。それらの図書、雑誌は、現在中央図書館で利用できます。図書に関してはすでに1997年4月から、7号館のスペース不足を理由に、語研で選書・購入した図書はWINEに入力され、中央図書館の研究書庫に、中央図書館の分類で配架されて来ました。その翌年、22号館へ移転した際、7号館の書庫にあった図書も、中央図書館地下1階に新設した「旧・語研図書コーナー」に移しました。

昨年の4月以降も“Linguistische Arbeiten”など150タイトルを超える図書の継続シリーズと“TESOL quarterly”など約400タイトル（洋雑誌370、和雑誌30）の雑誌は、中央図書館が購入しています。最近の雑誌は、製本単位になるまでは、3階の新着雑誌コーナーに配架しています。スペースの関係で、製本雑誌は本庄分館に別置されています。

WINEを検索して、求める巻号の所在表示が「本庄（旧語研）」になっている場合は、2階か3階のカウンターにお申し込みください。又、各キャンパス図書館、教員図書室でも受け付けています。通常、本庄分館からのメール便は毎日運行しています。

一般図書（主に洋書）の選書については、中央図書館の選書アドバイザーを乾英一教授、塩田勉教授（ともに国際教養学部）が2004年度担当し、継続的に選書体制を維持しています。

（1997年より、出向又は兼務により語研図書室を担当）

法学部学生読書室の 移転について

法学部学生読書室

法学部学生読書室は、新8号館完成に伴い、2005年4月5日（予定）より地下2階にてリニューアルオープンする運びとなりました。移転に伴い、読書室の総面積は1232.77平米（従来は594平米）と約2倍広くなり、座席数も増え、仮住まいの22号館時代と比べ、全体にゆとりと利用できるようになります。また内装およびテーブル等の備品が一新されることにより、より快適な利用空間が実現するでしょう。

新しい施設に移転しても、サービス内容が伴わなければ意味がありません。法学部の学生読書室は、相応の蔵書とサービスを兼ね備えております。蔵書数は約4万7千冊を誇ります。学生読書室なので、講義の参考文献・基本図書・法律情報を探すための参考図書類といった授業の補習に役立つ資料の提供が中心となっております。こうした「学習図書室」としての側面のほかに、法学分野の専門書を集中的に所蔵している「専門図書館」の側面も兼ね備えております。「法学部教員BOOK SHELF」でおなじみの法学部専任教員の最新刊を紹介するコーナーは、当室の目玉の一つです。他方で法学分野以外にも、各種の新書や文庫など幅広い分野の資料も提供しております。また「端末コーナー」では、判例集・Law Review等のデータベースもより一層利用しやすくなります。みなさまのご利用をお待ちしております。

（文責：金沢 美都子）



開室準備中の法学部学生読書室（2005年2月撮影）